
東方小ネタ集

未来組

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方小ネタ集

【Nコード】

N4091T

【作者名】

未来組

【あらすじ】

東方を主軸に偶に他作品とのクロスネタなど色々思いついたネタを書いています

東方咲夜伝（前書き）

憑依モノです

東方咲夜伝

私は真実を知った！

ごめんなさい、いきなり訳の分からない事を言い出して、改めて自己紹介をします

私の名前は朔、幻想郷の人里で生まれた転生者（元男）です

皆さん、今こう思ってますね？

「オリキヤラワロスW」

「タイトルはつりですね、わかります」

「つられたクマー」

「性転換モノってハハハ」

とか、別にタイトル詐欺じゃないんですよ、だって私十六夜咲夜ですから！！ん〜、残念！！転生憑依作品斬り！

まあ、そんな訳で私は今幻想郷の人里で団子屋の仕事をしながら暮らしています、紅魔館で働かないのかって？私生前ホラー物が苦手です、ホラー物の代表である吸血鬼のいる所で働くのは勘弁して欲しいなと思ってます

因みに能力は原作と変更なく『時間を操る程度の能力』です。何故かスタンドの『ザ・ワールド』も使えますが

この能力を利用した出来たて団子配達は好評で毎日、白玉楼から沢山の注文がきて団子屋さんに多大な貢献をしています

・・・言いたい事はわかりますよ、吸血鬼はダメで幽霊はいいのか？って言いたいのでしょう、ああ怖いさ、恐いよ、そして管理者の幽々子さんはとても強いよ！でも・・・でも・・・私が働いている団子屋さんの得意先なんだから仕方がないじゃないか（泣き）

怖いから白玉楼に行く前に毎回博麗神社に行って霊夢に頼んで凄く浄められた塩を貰って保険を作っておくんだよ！

このお話はこんなへたれ咲夜さんの物語である

朔の1日はいぬさくやの揺さぶりから始まる

いぬさくや はやく起きて下さいでし！

ユサユサユサ

朔「うん・・・おはよーいぬさくや」

いぬさくや おはようございますでし、ご主人様

朔「うん、今日もいぬさくやは元気だね」

そして目が覚めると朝食の準備をする

朔「今日は目玉焼きとパンにしようかな？」

いぬさくや あの半妖さんの所で購入したお米ベーカーリーを使用したあれでしね！？

朔「うん、そうだよいぬさくや。昨日の内に作ったお米パンと一緒に食べようね」

いぬさくや はいでし！

そして朝食が終わると朔は着替え団子屋へ働きに行く

団子屋の主人「おはようさん」

朔「おはようございます」

午前中は団子屋で働きます

主人「この団子をあちらさんにな」

朔「了解です」

因みにいぬさくやは午前中は家の掃除や洗濯等をしています

いぬさくや うんしょ、うんしょ

午後になると団子配達を始めます

お得意先は白玉楼、ひ田家（ひの漢字がでない）、香霖堂、八雲監
でありその他にその日の依頼をこなす

因みにいぬさくやは、お友達の橙と仲良く遊んでいる

いぬさくや 待つでし〜！

橙「こつちだよ」

白玉楼に行く前に博麗神社に行く

朔「お願いします！」

霊夢「ハイハイ」

因みにお賽銭に毎日百円（この作品では、現在日本の通貨が幻想郷
で使われています）

白玉楼では妖夢でやり過ごし幽々子に直達

朔「ザ・ワールド！」

妖夢「（時間停止中）」

朔「お、おおお持ちしました！」

幽々子「あらあら、可愛いわね、アナタ」

朔「ヒイ！」

配達が終わると団子屋に戻り時間まで働く

朔「団子いりますか〜」

偶に配達中に人食い妖怪と出会うが包丁投げやザ・ワールドのラッ
シュでボコボコにする

ルーミアの場合は団子屋まで連れ帰り仕事が終わるまで待つてもらっ
ルーミア「まだなのかい？」

朔「まだですよ」

ルーミア「そうなのかい」

仕事が終わると買い物をしてから家に帰る

朔「あれとこれ下さい」

店主「あいよ」

朔「はい、これで丁度ですよね」

店主「ああ、所で家の息子はどうか？いい夫になると思うんだが」

朔「あはははは……」

自宅に戻ったら、夕食準備

朔「今日はあれにしようか」

いぬさくや アレでしね！

夕食、ルーミアと一緒になら食べてから帰る

ルーミア「おいしいわ」

朔「それは良かった」

いぬさくや おかわりはいらないでし？

いぬさくやと仲良くお風呂

就寝

朔「おやすみ、いぬさくや」

いぬさくや すやすや

日々、平穩に過ごしていた朔に魔の手が忍び寄る！

「彼女はわたしの元に来る運命にあるわ」

団子屋の主人の突然の怪我

「コジマは……マズい……」

ふと見つけてしまう求人情報

「どうしたの？いぬさくや」

これどうぞでし

次回、東方咲夜伝

『パートのお仕事始めました』

悪魔が回す運命の歯車を攻略せよ!!!

東方咲夜伝（後書き）

うちの咲夜さんの設定

時間厳守な配達人

朔

職業：団子屋の店員

能力：時間を操る程度の能力

住んでいる所：人里

人里に住んでいる団子屋さんの店員

彼女が働いている団子屋さんはかなり有名（ 1 ）

彼女は人里ではかなりの人気者である（ 2 ）

能力

大体は幻想郷縁起と同じ内容に次の文が加わる

さらに、この能力は重力にも干渉する事が出来る。時の流れは重力によって速くもなり遅くもなるからだ。しかし重力制御はあくまでも自身の能力である『時間を操る程度の能力』の応用による物の為、体力の消費が激しいらしい。またこの能力について八雲紫氏は重力制御を極めれば幻想郷を滅ぼせると言っている（ 3 ）

性格

かなり臆病な性格で、特に吸血鬼や幽霊は一番怖いらしい

周囲の評判

博麗霊夢「彼女は大事な金ツ、ゲフンゲフンお得意先よ」

毎日会っているようだ

西行寺幽々子「からかいがあつて可愛いわ」
からかうのも程々にしてくださいね

サニー・ミルク「モウイタズラナンテシナイヨ！ゼツタイ！」
臆病だからといってやりすぎると恐ろしい目にあつようだ

- 1、私自身毎日配達を頼んでいる
- 2、彼女に会うためだけに団子屋に行く人もいたり毎日最低一回はプロポーズされている
- 3、発動したら即幻想郷が減びるといふような能力ではないらしい。もしあの力を使うなら前もって言ってくれば問題ないとも言つていた

素朴な疑問（能力編）（前書き）

この話は『東方咲夜伝』の設定の元作られております。苦手な方は
ご遠慮ください

因みに作中の咲夜（朔）の疑問は私自身の疑問でもあります

素朴な疑問（能力編）

これは朔が紅魔館で働きだしてから暫く後の話である

「あの、レミアアさんふと疑問に思った事があるんですが」

「はあ、いくらパートとは言え働いている時は、それ相応の態度でいてほしいのだけど？」

「あ、・・・申し訳ございません、お嬢様」

「よろしい、それで？何かしら」

「はい、お嬢様の能力に関しての事なのですが・・・」

「私の『運命を操る程度の能力』の事？」

「まず、運命を操るとありますが運命を操るにはまずある程度先の事を知っているのですか？」

「どういう事かしら」

「つまり、結果を知っていなければ運命を操った事かわからないと思つのです」

「なるほど、確かにそうね。いきなりこの運命は私が操作した結果よ！と言っても本来の運命がわからなければただの後出しジャンケンと変わらないわね」

「まあ、早い話、言つたもん勝ちですね」

「まあ、私自身完璧とは言えないけど未来を予知する事は可能よ」
「なる程・・・」

「質問は以上かしら？」

「いえ、まだあります」

「続けなさい」

「未来を予知すると言いましたが、その予知した未来とはどんなモノですか？」

「どんな、とは？」

「未来と言つても可能性上存在する未来もあれば、お嬢様が行動し

た結果の未来もありますし、逆にお嬢様が行動しなかった結果起る未来というのもあります」

「ふむ……」

「そんな事を昨日寝る前にふと思ったのですが……」

「……」

「お嬢様？」

「そろそろ時間ね……私の方はもういいから、あなたはフランの所に行きなさい」

「はぁ……わかりました」

「私の視た未来……フランが暴走する未来は私自身が創った未来だ……？」

この日、レミリア・スカーレットは一度も眠る事はなかったらしい

東方傭機兵（前書き）

東方咲夜伝とは一切関係ありません

また、一部表現がおかしな所もあるかもしれませんがどうか気にしないで下さい

東方傭機兵

ザ…ザザ…ザザ…ザザザ……………

『荒廃…した…………界を…人を再…………す…。そ…………私の…………命…………』

《彼ノ彼女》は傷ついた身体を動かす。自らの使命の為に

ズガアン

《彼ノ彼女》の左腕が地面に落下する。しかし《彼ノ彼女》はその程度では止まらない

『私…………守る為…………出さ…………。…………使命…………り、…………世界…………る…………』

《彼ノ彼女》は右腕を構える。目の前にいる存在を排除する為に、人類の為に、世界の為に

『馬鹿な！アイツはあの状態でまだ動けるとでもいうのか！？』

存在が何かを叫んでいる、しかし《彼ノ彼女》にとってはどうでもいいことだ、右腕の武装を展開しエネルギーをチャージする。目の前の存在も《彼ノ彼女》との激闘により満足に動けないようだ

『クソツ！動け、動け！』

狙いを定める、今の目標の装甲ではこの出力には耐える事は出来な

いだらう。そう《彼ノ彼女》は確信した

『消……！イ……ユ……！』

しかし、《彼ノ彼女》の狙いとは裏腹に、自身の身体は崩れ落ち、
《彼ノ彼女》の意識も闇に堕ちていった……

その日、アリーナから2人のレイヴンが姿を消した。2人の内の1
人は、最強のレイヴンと呼ばれる存在だった

その最強のレイヴンが駆る紅い機体を人々は畏怖と敬意を込めなが
らこう呼んでいた……

ナインボール

と

やがて、彼という存在も人々から忘れ去られていった。次々とラン
クが変動するアリーナ、新たに人々が手にした開拓地地上、次々と
現れては消えていくレイヴン達、彼という存在が忘れられるのも仕
方がない事だった。

そして、《彼》という存在が幻想となるのも仕方がない事だった

東方備機兵

く ナインボールが幻想入りく

彼岸花が咲き誇る

真っ赤な、真っ赤な彼岸花

それはまるで血のようで

それはまるで《彼》のようでもあった

各部チェック開始…………… オールクリア

ここは無縁塚、幻想郷の端に位置しており、また様々なモノが迷い込んでしまう場所でもある

幻想郷の住人がですら余り近付かないこの場所に1人の少女が眠っていた

全システム…………… チェック終了

紅と黒の2色に染まった服を着て、髪も紅、その髪を纏めるリボン
は黄色

幻想郷の住人がよく知る妖精に少女は凄く似ていた

しかし決して少女を妖精と間違える者はいないだろう。何故ならば、妖精とは違い少女の背には羽はなく、機械的なモノが付いているのだから

通常モードで起動

少女は目を開くとすぐに起き上がった

「ここは・・・何処だ・・・？」

少女は周囲を見回すが、何もわからない
寧ろ更に混乱する事になった
何故なら少女の周囲にある光景は大昔に失ってしまった筈の光景だからだ

「待て・・・失った？何故？何を？どうして？いつ？」

少女は自分の事はわかるが、それ以外の事を思い出せなくなっていた

「私の名は、ハスラー・ワン・・・私には何よりも優先しなければ
ならない事があった・・・それは何かの為であり、また何かの為で
もあった・・・だが」

いくら思い出そうとしてもその部分だけがぼっかりと抜け落ちてしまったかのように思い出せなくなっている
その事について考えていると

此方に急速で接近する生体反応多数。キケンキケンキケンキケン
キケン

少女が顔を上げると此方に向かってくる異形の存在達の姿がみえた

「何者だ？」

少女は自身の左肩にある折りたたみ式の武器を展開する

「誰であろうと、私を超える事など不可能だ。特に貴様等ごときではな」

後ろに振り向き左肩の武器からグレネード弾を発射する

その一撃は少女を追っていた妖怪達を吹き飛ばすには十分であった

「があ・・・ぐぞがああ・・・」

「まだ生きていたのか」

一匹だけ生き残っていた妖怪に近付く少女

「そう言えば、貴様等はさっき人間がどうこう言っていたな。何と言っていたか教えてくれないか？」

左腕にレーザーブレードを展開すると、妖怪の首のすぐ横につける

「調子にのるんじゃないやねえ！この妖精風情ガアアアアアあああ！！！！！！」

最期の力を振り絞った妖怪は目の前の少女を殺そうとするが

「消えろ」

少女にとっては余りにも遅すぎたらしく首を斬り飛ばされるのだった

「思い出した・・・私の使命を・・・私は人類を守る為に生み出された。人類を守る・・・それが私の使命・・・そのためには人々の

命を脅かす存在を全て排除する必要がある」

彼女はそう言うと、空に浮かび上がる

人間とは異なる生命反応を多数確認

「あの山か・・・消えてもらっぞ・・・イレギュラー！」

彼女は妖怪の山へ飛んでいった

これが後に、様々な陣営を巻き込んだ大異変、傭精大戦争と呼ばれる出来事になるとは誰も思いもしなかった

東方傭機兵（後書き）

ハスラー・ワンの装備

鬼パルス（弾数200、威力小、弾速最速、連射可能）

レーザーブレード（弾数無限、威力最小、射程最短、自機の周囲のみ攻撃範囲）

グレネード（弾数15、威力最大、弾速遅、連射不可、敵に当たった時爆発が発生して周囲を巻き込める）

ミサイル（弾数60、威力中位、弾速普通、連射不可、ホーミング性能有）

こんな所か

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4091t/>

東方小ネタ集

2011年5月30日11時02分発行